

会間の連携、歯科法医学における親善、向上、研究の促進、ニュースレターの発行を行っている。本機構が最も重視している事業は、災害時・平時の個人識別、年齢推定、歯痕・咬傷の検査、口腔外傷の評価、報告書（鑑定書）等、歯科法医学における良質性の管理である。本機構には、現在、20 機関（国）が加盟している（参考資料 2）。

その他に、個人識別を主とした歯科法医学実務に対し、先進的な立場で活動している機関は以下のとおりである。

American Society of Forensic Odontology（ASFO）、American Board of Forensic Odontology（ABFO）、Australian Society of Forensic Dentistry（ASFD）、The British Association for Forensic Odontology（BAFO）。

これらの学会から学ぶものは大きい。概要は参考資料 3 に示す。

### 3) いわゆる歯科法医学先進国の歯科医師会における災害時の身元確認体制

Fédération Dentaire Internationale（FDI）では、世界歯科大会において、グローバリゼーション、国際テロリズム、高度犯罪、天災および人災がもたらす歯科法医学の課題についての報告（2008 年、ストックホルム大会）が行われ、各国が対峙する問題の個別の性質を認識し、グローバルな品質管理、教育の標準化、歯科法医学問題における国際協力の必要性について提案されている。

American Dental Association（ADA）においては、Emergency Planning & Disaster Recovery in the Dental Office が発行されているほか、Dentistry's Role in Responding to Bioterrorism and Other Catastrophic Events、Dentistry's Response to Bioterrorism and Other Mass Disaster、The Dentist's Role in Forensic Identification: The Release of Dental Records & Radiographs, and Denture Labeling など、歯科法医学、とくに災害時の個人識別に関するマニュアルが多数、発行されており、災害のみならず、バイオテロリズム等への対応についても統一的な

見解を示している。

## 2. 日本における身元確認体制の状況

### 1) 日本における歯科法医学教育

昭和 39 年、東京歯科大学に、わが国最初の歯科大学における法医学研究機関である歯科法医学研究室（現 法歯学講座）が開設された。翌、昭和 40 年に日本大学歯学部にて法医学教室が、昭和 43 年には神奈川歯科大学に歯科法医学教室（現 社会医歯学系社会歯科学講座法医学分野）が設置された。それぞれの大学において独自の研究、ならびに歯科法医学教育を行い、大学院講座へと発展しながら、これらの教育研究機関に所属する研究者、教育者も増えていった。平成 10 年に日本歯科大学生命歯学部にて歯科法医学センター、平成 15 年には明海大学歯学部にて歯科法医学センターが、翌、平成 16 年には鶴見大学歯学部にて法医歯学研究室が開設された。これにより、歯科大学・大学歯学部での法医学系教育研究機関は 6 機関となった。

このように、歯科大学・大学歯学部における歯科法医学教育は、前述の 6 機関を主体として各大学独自のカリキュラムのもとに行われてきた。平成 19 年改訂歯科医学教授要綱（歯科大学学長・歯学部長会議編）において、「大規模災害による身元不明死体の歯からの個人識別を説明できる。」との統一的な教育目標（到達目標）が示された。

### 2) 日本における歯科法医学関連学会、研究組織

日本における歯科法医学関連学会、組織は、昭和 35 年に発足した歯科法医学談話会に始まる。これには医学部で法医学を学んだ歯科医を中心に十数名が参加している。その後、この談話会は、日本法医学会に所属する歯科医師らを中心とする法医学歯科研究会に発展し、平成 19 年 4 月の日本法歯科医学会設立まで継続した。日本法歯科医学会は、歯科的個人識別のみでなく、歯科医と法律、歯科医療安全、および警察歯科活動を 3 本柱として活動を行っている。



### 3) 日本の歯科医師会における災害時の身元確認体制

災害時における歯科医師会の活動としては、1985年8月の御巣鷹山日航機墜落事故における群馬県歯科医師会の活動は歯科的個人識別の有用性を認知させた事件として有名である。これに端を発し、各県歯科医師会における警察歯科医会設立の動きが顕著となり、その後、1994年4月の名古屋空港中華航空機墜落事故における愛知県歯科医師会の活動、1995年1月の阪神淡路大震災における兵庫県歯科医師会の活動につながるものとなった。

このような背景の中、全国の歯科医師会を母体に警察歯科医会が結成され、平成8年に第1回警察歯科フォーラムが広島県歯科医師会の主管により開催された。このフォーラムは、平成14年から主催が日本歯科医師会へ移され、全国警察歯科医会連合会も発足し、大会の名称も警察歯科医会全国大会と改められた。この第1回大会（長野県歯科医師会主管）において、日本歯科医師会全国警察歯科医会検討臨時委員会編による「警察歯科医・身元確認マニュアル」が発行された。国内初の統一的な身元確認体制が誕生したともいえるものである。なお、第6回警察歯科医会全国大会事前アンケートによると、「遺体検査の際の歯科記録の書式が県内において共通している」と回答した県歯科医師会は91.5%であったことが報告されている。

## D. 考 察

2004年末、スマトラ沖地震における津波により5,000人余の死者が発生し、その多くが身元不明死体であったため、現地では身元確認を始めとした遺体処理に極めて難渋したことが、世界中に発信された。その際の身元不明死体の個人識別はINTERPOL 主 導 の Disaster Victim Identification (DVI) 形式で行われた。本来、DVIは、Forensic Pathologist（法医）、Forensic Odontologist（法歯科医）、Police Officer（警察）の各1名からなる専門家チームにより、着衣・所

持品の検査、身体特徴、写真撮影、指紋採取、解剖所見、歯科所見、DNA 検査用の資料採取（大白歯の抜歯）により、死因究明というより個人識別を主体とした死体検案が行われる。歯科情報の検査、記録、照合・判定は、身元確認を行うための情報として、重要視されている項目である。災害時の歯科的個人識別の有用性については異論のないところであるが、日本においてDVI、あるいは類似のシステムを導入することは可能なのか、調査、検討を行った。

### 1. デンタルチャートの形式について

従前より日本で実施されてきた大規模災害時の身元確認において、歯科情報による個人識別は、多くの実績を有しており、1985年の御巣鷹山日航機墜落事故においては、歯科情報を主たる確認項目として身元が判明した遺体は、全体の25%以上であったと報告されている。この際、用いられた歯科記録用紙は、社会保険診療録の第1号用紙に用いられているような歯型図を中央に配置し、周辺にアングルサインと番号を用いる歯式記載法（Zigmond's system）による所見欄を配置したデンタルチャートであった。これは、身元確認にあたって多くの臨床歯科医が日常臨床で最も見慣れている書式であることから、混乱が予想される現場で、更なる混乱を招かないための配慮であったと考えられる。歯科医療においても少なからず国際化の影響を受けている現代とはいえ、社会保険診療が普及している日本では、DVI形式のデンタルチャート、とくにTwo-Digit systemによる歯式記載法は、未だ浸透しているとは言い難い。

### 2. 歯科医学教育について

前述したように、災害時に活動する歯科法医学者は大多数が臨床歯科医であり、彼らが受けてきた卒前歯科法医学教育の影響は大きい。日本では、少なくとも6教育機関で歯科法医学教育がなされており、これは、世界的に見て後進的状况であるとは考えにくい。さらに、平成19年改訂歯科医学教授要綱（歯科大学学長・歯学部長会議編）より、



歯科法医学分野の教授項目、一般目標が記載され、大規模災害時における身元不明死体の歯科的個人識別について、到達目標が明記された。今後、各教育機関において、この教授要綱に従った講義が行われることにより、歯科医師による社会活動の推進にとって、大きな追い風になると考えられる。

### 3. 歯科法医学関連学会、研究組織について

歯科法医学関連学会、研究組織における身元確認への協力体制については、IOFOS が指導的立場で活動を行っている。IOFOS の事業として、災害時の個人識別に関する良質性の管理があるが、その中で、「歯科情報の DVI 形式への転記」という項目がある。20 機関（国）の歯科法医学関連学会からの情報により、このような方式を採ったものと考えられるが、各国の事情に配慮した、即応性のある措置であると考えられる。他の学会組織においても同様の対応を行っているようである。一方、平成 19 年に設立された日本法歯科医学会においては、この内容についての検討は、未だなされていないが、法医学歯科研究会においては十分に討議され、明文化されてはいないものの、諸外国に歯科情報を提示するの必要に応じて、INTERPOL (DVI) 形式の書式に翻訳、転記するとの共通認識を有しているようである。

### 4. 歯科医師会における災害時の身元確認体制について

FDI では、災害のみならずテロリズム等における歯科的個人識別をも視野に入れている。また、各国が対峙する問題の個別の性質を認識し、地球規模での良質性の確保、教育の標準化、歯科法医学問題における国際協力の必要性について提案している。いわゆる歯科法医学先進国においても同様の考え方を有しているようであるが、ADA を除いて、詳細は明確にできなかった。ADA では、「災害時における歯科診療所での緊急対応」、「バイオテロリズムと他の壊滅的な災害時における歯科医師の役割」、「法医学的個人識別における歯科医師の役割」など、災害時の歯科医師の対応、個人識

別に関するマニュアルを多数、刊行し、統一的な見解を示している。日本では、各県歯科医師会における警察歯科医会設立、身元確認マニュアル発行が先行し、日本歯科医師会では、平成 14 年に全国警察歯科医会連合会を発足、「警察歯科医・身元確認マニュアル」を発行し、統一的な身元確認体制を示した。この中で、発災時には、都道府県歯科医師会に歯科医療救護活動と歯科的個人識別が求められることが明記されており、災害・被害情報の収集、指揮系統・出動要請、活動内容、歯科記録書式等が詳細に記されている。すでに各県で同様のマニュアルを発行している歯科医師会を除いては、このマニュアルに従った活動を推奨している（参考資料 4）。また、第 6 回警察歯科医会全国大会事前アンケートによると、91.5%の県歯科医師会において、統一した歯科記録書式を使用している。今後、さらに DVI 形式のデンタルチャートを求めることにより混乱を招くことは必至であると考えられる（参考資料 5）。

都道府県歯科医師会の身元確認マニュアル等において、指揮系統・出動要請は、地域防災計画に基づいて行われることが明記されており、マニュアル等に基づいた県単位での防災訓練、身元確認研修会などの実施はすでに行われており、その中での参集訓練、器材管理、外国人被災者への対応など、いくつかの重要な問題点の抽出が行われている。しかしながら、第 6 回警察歯科医会全国大会事前アンケートにおいて、広域災害時に隣県から歯科的個人識別のための派遣要請を受け入れる県は 53.2%、隣県からの歯科的個人識別のための資料整理に対応できる体制を整えている県は 27.7%にとどまっているとの報告があり、広域災害時の相互協力体制は未だ不十分と言わざるを得ない。さらに、郡市単位では、地域防災計画が策定されていない行政機関、あるいは、指定地方公共機関として協定締結に至っていない郡市歯科医師会も多く、さらなる整備が望まれる。

災害時における歯科医師の活動を推進するためには、歯科医師会の社会活動に対する意欲を亢進させることが即効性を示し、具体的な活動を推進

するためには、歯科医師会と行政機関との協定締結を推進することが必須であると考ええる。

## E. 結 論

以上より、日本における災害時の身元確認体制は、歯科的個人識別の観点から、すでに確立されているともいえるが、災害時の歯科医師の活動は、都道府県歯科医師会単位で地域防災計画に基づいて行われる。そのため、都道府県歯科医師会が指定地方公共機関に指定されることが必要であり、その中で、歯科医療救護と歯科的個人識別が行える。

大都市の国際化に伴う、外国人被災者の身元確認については、通常、国内で行われている書式に則り記録し、必要に応じて、採取した歯科情報をDVI形式の書式に翻訳、転記することが、現場の混乱を回避でき、即応性があるものと考えられた。

さらに、これらの実効性については、あらゆる状況を想定した事前訓練、ならびに訓練の結果からの問題点の抽出を行い、さらなる状況の想定、事前訓練、問題解決に結びつけることが有用であると考えられた。

## F. 研究発表

特記事項なし

## G. 知的財産権の出願・登録

特記事項なし

### 〈参考文献〉

- ・災害時における歯科医師の役割 ― 歯科医療救護・歯科的個人識別 ―, 都築民幸, 歯学, 92巻春季特別号, 95-102, 2005.
- ・法医歯科学, 山本勝一, 第6版(補訂), 医歯薬出版, 東京, 2006.
- ・法歯学, 鈴木和男, 改訂3版, 永末書店, 京都, 1996.
- ・日本法歯科医学会, 設立までの経緯, 高橋雅典, 日本法歯科医学会誌, 1:1, 3-5, 2008.
- ・歯科的個人識別, 都築民幸, 日本歯科大学校友会・歯学会会報, 34:2, 13-16, 2008.
- ・平成19(2007)年改訂歯科医学教授要綱, 歯科大学学長・歯学部長会議編, 第1版, 医歯薬出版, 東京, 2008.
- ・遺体の身元を追って ― 日航ジャンボ機墜落と歯科医師の記録, 群馬県歯科医師会・日航機事故記録編纂特別委員会・サンデージャーナル編, 上毛新聞社, 群馬, 1986.
- ・終焉の着陸復行 ― 中華航空機墜落事故と歯科医師の活動記録, 愛知県歯科医師会, 愛知県警察歯科協力医会編, 手島印刷, 愛知, 1995.
- ・大震災と歯科医療 ― 阪神・淡路大震災からの報告と提言, 兵庫県歯科医師会, 梶原出版, 兵庫, 1996.
- ・第6回警察歯科医会全国大会配布資料, 事前アンケート(第2回)集計結果, 群馬県歯科医師会, 2007.
- ・Tsunami Report, Mahidol University Faculty of Dentistry, I.U.S.O.H News Letter, 18, 18-21, 2005.
- ・警察歯科医会・身元確認マニュアル, 日本歯科医師会・全国警察歯科医会検討臨時委員会, 2002.
- ・第5回警察歯科医会全国大会プログラム集, 福岡県歯科医師会, 2006.
- ・第6回警察歯科医会全国大会プログラム集, 群馬県歯科医師会, 2007.
- ・第7回警察歯科医会全国大会プログラム集, 北海道歯科医師会, 2008.
- ・大規模災害と歯科医師, 岩原香織・都築民幸, 日本歯科大学校友会・歯学会会報, 34:3, 14-16, 2009.
- ・東京都地域防災計画震災編(平成19年修正), 東京都・東京都防災会議編, 東京, 2007.

## 参考資料 1

いわゆる歯科法医学先進国における歯科法医学教育



## アメリカ合衆国

- ・ The University of Texas Health Science Center at San Antonio, Dental School (UTHSCSA) Center for Education and Research in Forensics

本センターでは、エックス線画像・写真撮影の方法と解釈、遺体や被災者の歯科的個人識別、咬傷の分析と解釈、虐待被害者の発見と支援、法医解剖、法人類学、鑑定人としての証言、その他、法に関する事項の教育と実際的経験を積むことにより、AAFS (American Academy of Forensic Science) の会員や研究員、ABFO (American Board of Forensic Odontology) 認定の条件を達成する機会を与えるプログラムである。

- ・ Bureau of Legal Dentistry (BOLD), North America's First Laboratory Dedicated Exclusively to Forensic Odontology

ブリティッシュ・コロンビア大学の歯科法医学研究所である。北米の最初で唯一の研究所で、フルタイムの歯科法医学研究、実務と大学院教育を行っている。

捜査、個人識別、分析、証言など法的問題の解決を援助するために、現代の法科学手法を歯科的な証拠に適用し、歯、骨、唾液、DNA、歯科記録を扱う法歯科医と他の法科学者のための情報源となることを目的としている研究所である。

## オーストラリア連邦

- ・ The University of Adelaide, Australia, Forensic Odontology Unit

1980年、南オーストラリア政府同意の規約下で、本機関とアデレード大学に資金を供給し、作られた。オーストラリアにおける最初の専門機関である。

- ・ The University of Melbourne, Melbourne Dental School, Graduate Diploma in Forensic Odontology

オーストラリアの法制度の中で、歯科法医学の知識と熟練を得る機会を推進し、基礎科学と歯科法医学の両者の中でさらなる熟練を推し進める機関である。

## 参考資料 2

いわゆる歯科法医学先進国の歯科法医学会、研究機関

I O F O S 加盟機関（国）

## International Organization for Forensic Odonto-Stomatology (IOFOS) 加盟機関 (国)

- American Society of Forensic Odontology
- Australia Society of Forensic Odontology
- Austrian Society of Forensic Medicine (ÖGGM)
- British Association for Forensic Odontology
- Croatian Association of Forensic Stomatologists
- Arbeitskreis für Forensische Odonto-Stomatologie - Germany
- Danish Society of Forensic Odontology
- Finnish Association of Forensic Odontology
- Flemish Association of Dental Experts
- Forensische Zahnärzte der Schweiz (FOCH) (Swiss Group of Forensic Dentists)
- Association Française d' Identification Odontologic (AFIO)
- Icelandic Society of Forensic Odontology
- Israel
- Japanese Society of Forensic Odontology
- Korean Committee of Forensic Odontology / Dental Jurisprudence
- Nederlands Forensische Medische Genootschap
- New Zealand Society of Forensic Odontology
- South African Society for Forensic Odonto-Stomatology
- Swedish Society of Forensic Odontology
- Thailand



### 参考資料3

いわゆる歯科法医学先進国の歯科法医学会、研究機関

#### American Society of Forensic Odontology (ASFO)

1962年、Armed Forces Institute of Pathology (AFIP)により最初の歯科法医学研修会が行われ、1969年にはAmerican Academy of Forensic Sciences (AAFS)に所属する歯科医師らにより、学会設立への具体的な取り組みが始められた。翌1970年にAFIPの口腔病理主任であるBoyers Rにより学会としての活動が始められ、1976年に最初の年次総会がWashington DCで開かれた。

歯科法医学の存在意義を高め、実務水準の確立および維持のために、研究、討論、セミナー開催、出版物の発行、その他の団体との連携を行っている。

#### American Board of Forensic Odontology (ABFO)

1976年に米国司法研究所の主導のもと組織された。ASFOの上部組織的性質の組織である。国の司法機関や行政機関に不可欠な専門的業務に従事する歯科法医学者の認定資格基準を定め、改善し、必要に応じて見直すとともに、認定専門医の資格を与えている（認定試験は年1回）。そのため、法医学専門委員会として、Forensic Specialties Accreditation Boardに承認されている。

歯科法医学の専門医を志望する明確な意思と必要な資格および能力を持つ人材を発掘できるような、実用的かつ公正な制度の提供を目指している。

また、1994年には歯学的証拠による身元不明遺体の個人識別ガイドライン、1995年には大規模災害による死亡者の歯科的個人識別ガイドラインを策定し、2006年には、咬傷の分析ガイドライン改訂版を出版している。

#### Australian Society of Forensic Dentistry (ASFD)

ASFDには、オーストラリアに在住するすべての法歯科医が登録しており、歯科医学および法科学の領域で歯科法医学を推進している。また、この専門領域に関心を持つ歯科医や、研修を受けている歯科医師会員も所属している。

オーストラリアにおける大学院教育として以下のような歯科法医学課程がある。

- ・ビクトリア州メルボルン大学およびビクトリア州法医学研究所の歯科法医学課程
- ・ニューサウスウェルズ州法医学研究所の歯科法医学5日コース（年1回）
- ・シドニー大学歯学部 of 指導による理学修士（歯科法医学）課程。（全日制の1年半か、定時制の4年間で、研究中心の課程）

その他、機関誌を年1回、ニュースレターを年4回発行している。

#### The British Association for Forensic Odontology (BAFO)

1984年から大学院の歯科法医学課程が認定され、この課程を修了した専門知識を有している歯科医は、Dip.F.Od.またはD.F.O.と記すことができる。England、Walesの法歯科医はLondon、Southern Englandに11名、South-West England、South Walesに7名、Midlandsに3名、East Angliaに3名、North-West and North Walesに4名、Yorkshire、North-East Englandに3名、Channel Islandsに1名いる。

法歯科医の職務としては、歯科記録による身元不明死体の個人識別ならびに大規模災害現場での協力、生体ならびに死体の年齢推定、咬傷、成傷器痕の分析などがある。

## 参考資料4

日本の歯科医師会における災害時の身元確認体制

都道府県歯科医師会の身元確認マニュアル等



福島県	「大災害・大事故身元確認マニュアル」(平成10年)福島県歯科医師会
東京都	「災害時の歯科医療救護活動における身元確認班(歯科医師班)研修テキスト」(平成11年)
東京都福祉局	「災害時歯科医療救護活動マニュアル」(平成9年)東京都
栃木県	「歯科鑑識マニュアル」(平成11年)栃木県歯科医師会
群馬県	「対応マニュアル」群馬県歯科医師会
埼玉県	「災害時歯科活動マニュアル」(平成16年)埼玉県歯科医師会
千葉県	「災害時歯科活動マニュアル」(平成15年)千葉県歯科医師会
神奈川県	「あ、地震だ! 災害対策歯科医療救護マニュアル」(平成10年)神奈川県歯科医師会
山梨県	「大災害・大事故身元確認マニュアル」(平成11年)山梨県歯科医師会、山梨県歯科医師会警察歯科医会
長野県	「法歯学マニュアル」(平成12年)長野県歯科医師会、長野県警察協力歯科医会
静岡県	「青い鳥をさがして 静岡県歯科医師会 防災マニュアル」(平成8年)静岡県歯科医師会
新潟県	「その時、歯科医師として 災害時歯科医療救護活動 歯科検死活動マニュアル」(平成12年)
新潟県歯科医師会	
富山県	「富山県警察法歯学活動マニュアル」(平成9年)富山県警察本部 富山県歯科医師会
愛知県	「航空機事故対策マニュアル」、「災害対応マニュアル」愛知県歯科医師会
三重県	「歯科鑑定マニュアル」三重県歯科医師会、三重県警察医会
広島県	「-歯科医のための- 鑑定の手引き」(平成3年)広島県警察歯科医会
福岡県	「災害対策マニュアル」(平成10年)福岡県警察歯科医会

マニュアルが冊子化されていないもの、県単位ではなく郡市歯科医師会でマニュアルが作成されている県もみられたことを附記する。

## 参考資料5

### 各種歯科記録用紙

歯科記録用紙（日本歯科医師会）

III - 2 ● デンタルチャート

III - 2 ● デンタルチャート

2. デンタルチャート

デンタルチャート (死後記録)

身体状況	歯の本数	歯肉状態	歯槽骨	歯根露出	歯周病	歯槽膿腫	歯槽膿瘍	歯槽膿瘍の形成
<input type="checkbox"/> 上下顎	<input type="checkbox"/> 上のみ	<input type="checkbox"/> 下のみ	<input type="checkbox"/> 上のみ	<input type="checkbox"/> 下のみ	<input type="checkbox"/> 上のみ	<input type="checkbox"/> 下のみ	<input type="checkbox"/> 上のみ	<input type="checkbox"/> 下のみ

上顎  
右 左

下顎  
右 左

発見・特定事項

氏名	TEL ( ) ( )
発見場所	TEL ( ) ( )
発見日時	TEL ( ) ( )
発見者	TEL ( ) ( )

社団法人 日本歯科医師会

デンタルチャート (生前記録)

氏名	TEL ( ) ( )
発見場所	TEL ( ) ( )
発見日時	TEL ( ) ( )
発見者	TEL ( ) ( )

上顎  
右 左

下顎  
右 左

発見・特定事項

氏名	TEL ( ) ( )
発見場所	TEL ( ) ( )
発見日時	TEL ( ) ( )
発見者	TEL ( ) ( )

社団法人 日本歯科医師会

30 ● 407 日本歯科医師会編纂 Vol.05 No. 5 (2002-0)

日本歯科医師会編纂 Vol.05 No. 5 (2002-0) 41 ● 31

歯科記録用紙（American Society of Forensic Odontology）

Manual of Forensic Odontology

Chapter 8 - Mass Disaster Management

POSTMORTEM DENTAL RECORD

ID NUMBER	LAST NAME	FIRST NAME	SEX
			M F
COMPUTER/DESCRIPTION CODES	ESTIMATED AGE	RACE (Circle one)	
	DATE OF POSTMORTEM	C - Caucasian M - Mongoloid N - Negroid U - Undetermined	
	CAPMI SYMBOLS		
	PRIMARY CODES	SECONDARY CODES	
	C CROWN D DISTAL F FACIAL L LINGUAL M MESIAL O OCCLUSAL/INCISAL U UNERUPTED V VIRGIN TOOTH X MISSING TOOTH / JAW FRAGMENT / MISSING / NONRECOGNIZABLE / FRACTURED CROWN / TRAUMATIC AVULSION	A ANOMALY ROOT TIP, ANY PATHOLOGY B PRIMARY TOOTH G GOLD CAST METAL, STAINLESS STEEL N NON-METALLIC RESTORATION P PONTIC R ROOT CANAL FILLING S SILVER AMALGAM T REMOVABLE PROS Z CARIES	
REMARKS	X-Ray Type	Date	DRP
	X-Ray Type	Date	DRP
	X-Ray Type	Date	DRP
	Examiners:		

AFIP FORM CAPMI 4.0 CODES

ANTEMORTEM DENTAL RECORD

ID NUMBER	LAST NAME	FIRST NAME	SEX
			M F
DATE OF BIRTH / ESTIMATED AGE	RACE (Circle one)	COMPUTER/DESCRIPTION CODES	
	C - Caucasian M - Mongoloid N - Negroid U - Undetermined		
DATE OF RECONSTRUCTION	ID NUMBER		
	CAPMI SYMBOLS		
	PRIMARY CODES	SECONDARY CODES	
	C CROWN D DISTAL F FACIAL L LINGUAL M MESIAL O OCCLUSAL/INCISAL U UNERUPTED V VIRGIN TOOTH X MISSING TOOTH / JAW FRAGMENT / MISSING / NONRECOGNIZABLE / FRACTURED CROWN / TRAUMATIC AVULSION	A ANOMALY ROOT TIP, ANY PATHOLOGY B PRIMARY TOOTH G GOLD CAST METAL, STAINLESS STEEL N NON-METALLIC RESTORATION P PONTIC R ROOT CANAL FILLING S SILVER AMALGAM T REMOVABLE PROS Z CARIES	
X-Ray Type	Date		
X-Ray Type	Date		
X-Ray Type	Date		
Examiners:			

AFIP FORM CAPMI 4.0 CODES

Figure 8-2. Postmortem Charting Form developed by the Armed Forces Institute of Pathology. Other types of forms are available by contacting A. Warnick.

Figure 8-3. Antemortem Charting Form developed by the Armed Forces Institute of Pathology. Other types of forms are available by contacting A. Warnick.

240

243



# Disaster Victim Identification 書式と歯科記録用紙 (Dead Body、INTERPOL)

## DISASTER VICTIM IDENTIFICATION (DVI)

### HOW TO USE THE PINK POST-MORTEM (PM) FORM

Please write legibly.

#### I. RULES TO BE OBSERVED ON THE DISASTER SITE

No body should be moved before its location has been recorded.  
 All personal effects that undoubtedly belonged to a deceased individual should be collected and kept with the body or parts of the body of that individual. Any other effects should be recorded as unidentified and kept separately in the first instance.  
 A moisture resistant number card should be attached to each body or unidentified part of a body to ensure that it cannot get lost.

#### II. GENERAL INSTRUCTIONS

The PM form is designed for listing all obtainable data about a dead body that may assist in its identification in order to compare that data with the information obtained at the place of residence of the possible victim or missing person and recorded on the yellow ante-mortem form.

**IMPORTANT:** Record all data that can be obtained, since it is impossible to know what information will be supplied at the victim's place of residence for comparison purposes.

The layout of the form is intended to correspond to the actual sequence of events, and allows a simultaneous examination of effects, body, and teeth.

Where provided, use the appropriate figures for description.

**EXAMPLE:** Section C1: Fill in the figures "0203" in the "No." column at item 24 to designate a pullover and describe the material, etc. in the space provided for this information.

Whenever appropriate, boxes that can simply be marked with a cross are provided. Please use as many of them as possible. This will facilitate electronic processing of the information and also make it possible to handle reports compiled in a foreign language without translation (the Interpol Member States all use the same forms). For this reason, the layout is the same for the AM and PM forms.

### III. SPECIFIC INSTRUCTIONS

**Section B** Recovery of body from site: Fill in this form during recovery from the site of the disaster and add the number from the number-board attached to the body or part of the body.

**Sections C1 to C3** Photograph the body first, then remove any clothing and jewellery from the body.  
 C1 - clothing and shoes  
 C2 - personal effects  
 C3 - jewellery

**Sections D1 to D4** While the effects are examined and described.  
 D1 to D3 - physical description of the dead body  
 D4 - record any distinguishing marks (tattoos, etc.)

**Section E1 to F2** a medical examination is performed  
 E1 & E2 - list all data obtained by an internal examination that may assist in identification.  
 F1 & F2 - dental data (cf. instructions on the back of Section F1)

**Section G** Record any further information that may assist in identification, and/or continue with your description from a previous section (C to F) if there is not enough space.

If an identification is made, complete a "Victim Identification Report" in accordance with the instructions.

(This instruction to be printed on verso of the PM-front page)

(This instruction to be printed on verso of the PM-front page)

(IAB; Version 2022)

(IAB; Version 2022)

## The INTERPOL Victim Identification Form, Sections F1 and F2

### GENERAL INFORMATION

The INTERPOL Victim Identification Form consists of several sections - divided in two groups:

- 1) YELLOW FORMS for listing latest known data concerning a missing person;
- 2) PINK FORMS for listing all findings concerning a dead body.

Identification of a dead body may become possible if data listed on the pink forms concerning this body can be compared with, and shown to match, data listed on the yellow forms concerning one particular missing person. If an identification is made, the experts involved will complete an Identification-Report - as a prerequisite to issuing a death certificate and releasing the body for burial.

The identification of a dead body may be accomplished in several ways, depending upon the type of data used. The INTERPOL Victim Identification Form has been set up in such a way that sections listing the same type of data are marked with the same capital letter in the upper right-hand corner. For dental identification, the forms to use are Sections F1 and F2 (yellow), and Sections F1 and F2 (pink), because of the specialised vocabulary, they must be filled in by a forensically trained dentist.

### INSTRUCTIONS FOR USE - SECTION F1 AND F2 PM (pink)

These forms are designed for listing all dental information collected during the dental examination of an unknown dead body (or remains thereof).

In Section F1, make sure that the reference number is clearly shown - and that the sex is clearly indicated (boxes at the top). Fill in all the details requested further down. Under "Supplementary Details", list any information at hand that may serve to explain the results obtained from the dental investigation, e.g. where and when the body was found (co-ordinates), its condition (drowned, burned, skeleton), your own working conditions, presumed identity.

In Section F2, all dental findings related to the dead body must be listed. After having established full access to both jaws and cleaned all remaining teeth, describe in the spaces provided - tooth by tooth, at the right upper jaw with tooth 18, ending in the right lower jaw with tooth 48 - all treatment and other conditions found. Indicate surfaces by using Capital-Letter System: M = mesial, O = occlusal, D = distal, V = vestibular, L = lingual; if other abbreviations are used, please explain them in one of the boxes further down. (NOTE: there must be a notation for every tooth (or corresponding jaw area) recovered as part of the body). Next, sketch on the dental chart the location and extent of all fillings and other conditions found. For colour distinctions, use black for amalgam, red for gold, and green for tooth-coloured material. For teeth missing antemortem, put large cross (X) over the appropriate tooth square; for teeth missing postmortem (open socket), encircle the tooth number over/under the corresponding tooth square; for jaws sections not recovered, leave unmarked. Make sure that sketch and text tally. All X-rays taken in connection with the oral autopsy must be listed (type, date of exposure, teeth concerned). Supplementary examination may include photographic, microscopic, scanning electron microscopic (SEM), or metallographic examination of teeth and/or restoration removed from the body. Finally, an evaluation of age should always be given, either your own clinical estimate or, if teeth have been removed for this purpose, the method used and the result.

Once Section F2 has been completed, type your name, address and telephone number (or use your professional stamp) in the box at the bottom of Section F1. Finally, enter the date of completion above your personal signature. Remember - this is a legal document, so keep a full copy for your own file.

(This instruction to be printed on verso of the page PM-F1)

(IAB; Version 2022)

(IAB; Version 2022)

**P.M. (pink) VICTIM IDENTIFICATION FORM F2**

**DEAD BODY**

Nature of disaster: \_\_\_\_\_ No: \_\_\_\_\_  
 Place of disaster: \_\_\_\_\_ Sex unknown   
 Date of disaster: \_\_\_\_\_ Day \_\_\_\_\_ Month \_\_\_\_\_ Year \_\_\_\_\_ Sex  Male  Female

86 DENTAL FINDINGS in permanent teeth (Notify temporary teeth specifically)											
11											21
12											22
13											23
14											24
15											25
16											26
17											27
18											28
19											29
20											30
21											31
22											32
23											33
24											34
25											35
26											36
27											37
28											38
29											39
30											40
31											41
32											42
33											43
34											44
35											45
36											46
37											47
38											48
39											49
40											50
41											51

48 47 46 45 44 43 42 41 31 32 33 34 35 36 37 38

48 47 46 45 44 43 42 41

87 Specific description of  
 Chips, burrow  
 fissures and  
 inlays

88 Further findings  
 Occlusion: alteration,  
 irregular, anterior,  
 post-occlusal teeth,  
 etc.

89 X-rays taken of  
 Type and region

90 Supplementary  
 examination

91 Estimated age \_\_\_\_\_ Method \_\_\_\_\_

# Disaster Victim Identification 書式と歯科記録用紙 (Missing Person、INTERPOL)

## DISASTER VICTIM IDENTIFICATION (DVI)

### HOW TO USE THE YELLOW ANTE-MORTEM (AM) FORM

Please write legibly.

#### I. GENERAL INSTRUCTIONS

The AM Form is designed for listing any information that may be obtained from relatives, friends and/or physicians of the possible victim or missing person and that may assist in an identification, in order to compare that information with the data obtained from the dead bodies on the disaster site.

**IMPORTANT:** Record all information obtainable on the form, since it is impossible to know what data will be obtained from the disaster site.

**NOTE:** It is important to obtain and forward detailed information as rapidly as possible.

Where provided, use the appropriate figures for description.

**EXAMPLE:** Section C1: Fill in the figures "0203" in the "No." column at item 24 to designate a pullover and describe the material, etc. in the space provided for this information.

Wherever appropriate, boxes that can simply be marked with a cross are provided. Please use as many of them as possible. This will facilitate electronic processing of the information and also make it possible to handle reports compiled in a foreign language without translation (the Interpol Member States all use the same forms). For this reason, the layout is the same for the AM and PM Forms. Because of this identical layout, some numbered spaces are left blank (e.g. item 31 in section D1. This is the space provided for the description of the state of the body on the pink PM Form).

#### II. SPECIFIC INSTRUCTIONS

- Section A1 & A2: Personal data of the possible victim or missing person.
- Section B: Not applicable here (section B of the pink form is the report on the recovery of the body from the site).
- Sections C1 to C3: Description of effects (clothing, jewellery, etc.).

- Section D1 to D3: Physical description.
- Section D4: Record any distinguishing marks (tattoos, etc.).
- Section E1 & E2: List any medical information that may assist in identification.
- Section F1 & F2: Dental information (cf. instructions on the back of Section F1).
- Section G: Record any further information that may assist in identification, and/or continue your description from a previous section (C to F) if there was not enough space.

It should be born in mind that photographs of the clothing, jewellery, etc. described in various sections may be of valuable help for comparison with items found on the disaster site. Please attach such photographs, if available.

(This instruction to be printed on verso of the AM-front page)

(GB version 2002)

(This instruction to be printed on verso of the AM-front page)

(GB version 2002)

### The INTERPOL Victim Identification Form, Sections F1 and F2

#### GENERAL INFORMATION

The INTERPOL Victim Identification Form consists of several sections - divided in two groups:

- 1) YELLOW FORMS for listing latest known data concerning a missing person.
- 2) PINK FORMS for listing all findings concerning a dead body.

Identification of a dead body may become possible if data listed on the pink forms concerning this body can be compared with, and shown to match, data listed on the yellow forms concerning one particular missing person. If an identification is made, the experts involved will complete an Identification-Report - as a prerequisite to issuing a death certificate and releasing the body for burial.

The identification of a dead body may be accomplished in several ways, depending upon the type of data used. The INTERPOL Victim Identification Form has been set up in such a way, that sections listing the same type of data are marked with the same capital letter in the upper right-hand corner. For dental identification, the forms to use are Sections F1 and F2 (yellow), and Sections F1 and F2 (pink), because of the specialised vocabulary, they must be filled in by a forensically trained dentist.

#### INSTRUCTIONS FOR USE - SECTION F1 AND F2 AM (yellow)

These forms are designed for listing all dental information collected from dental practitioners records or other sources.

In Section F1, make sure that the reference number is clearly shown - and that the sex is clearly indicated (boxes at the top). Fill in all the details requested further down. Under "Circumstances of the Disappearance", give the shortest possible extract of the police report. Under "Dental information", list any supplementary information obtained by the police from family members and/or others. Request from the police - and list - exact name, address and telephone number of the dentist/institutions from which records etc. have been obtained; also list the respective periods covered (whole years). Written records should be originals or good photostat copies. Ensure that all records, X-rays, models, and photographs are clearly marked with patient's name, dentist's name, and date of exposure or production, if they are not, you must do it yourself!

In Section F2, the missing person's latest known dental status is to be listed. The status can only be established by extraction from - and re-arrangement of - the data listed in one or more dental records - or apparent from X-ray, models, photographs, or other material produced. Start with the latest entry in the written record and work your way backwards in this way, all previous treatment now covered by later treatment can be left out. Indicate surfaces by using Capital-Letter System: M = mesial, O = occlusal, D = distal, V = vestibular, L = lingual; if other abbreviations are used, please explain them in one of the boxes further down. (NOTE: there will be a notation only for treatment conditions actually described or seen in the material) - Next, sketch on the dental chart the location and extent of all fillings and other conditions listed as present according to your re-arrangement of data. For colour distinction, use black for amalgam, red for gold, and green for tooth-coloured material. For teeth extracted or not formed, put large cross (X) over the appropriate tooth square. If the practitioner's record includes a dental chart, compare it with your own and make sure they tally. Do not hesitate to contact practitioner for clarification of dubious points. If X-rays and/or other material are available, indicate - in the appropriate boxes - type, year of exposure or production, and teeth concerned. Finally, record age at time of disappearance.

Once Section F2 has been completed, type your name, address and telephone number (or use your professional stamp) in the box at the bottom of Section F1. Finally, enter the date of completion above your personal signature. Remember - this is a legal document, so keep a full copy for your own file. Likewise, make copies of all original record material, before returning it to the practitioner.

(This instruction to be printed on verso of the page AM-F1)

(GB version 2002)

### A<sub>MISSING PERSON</sub> VICTIM IDENTIFICATION FORM F2

Family name		MISSING PERSON		No.:	
Forename(s)					
Date of birth		Day	Month	Year	Sex
					Male <input type="checkbox"/> Female <input type="checkbox"/>

86	DENTAL INFORMATION in permanent teeth (Notify temporary teeth specifically)														21
11															22
12															23
13															24
14															25
15															26
16															27
17															28
18															29

18	17	16	15	14	13	12	11	21	22	23	24	25	26	27	28
48	47	46	45	44	43	42	41	31	32	33	34	35	36	37	38

46		36
47		37
48		38
45		35
44		34
43		33
42		32
41		31

87	Specific data	
	Crowns, bridges, dentures and implants	
88	Further data	
	Cavities, fillings, amalgams, sutures, periodontal status, etc.	
89	X-rays available	Type, region and year
90	Further material	
91	Age at time of disapp.	

(This instruction to be printed on verso of the page AM-F1)

(GB version 2002)

(GB version 2002)

## シンポジウム

# “大規模災害の保健医療支援における歯科の役割”

## プログラム

## Program

2008年10月18日（土）午後1時20分から  
東京医科歯科大学医歯学総合研究棟（I期棟）講義室1

### 主催

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究推進事業）  
「大規模災害時における歯科保健医療の健康危機管理体制の構築に関する研究」研究班

### 共催

財団法人 日本公衆衛生協会



---

## ご案内

---

われわれは昨年度より、厚生労働科学研究費補助金（地域健康危機管理研究事業）「大規模災害時における歯科保健医療の健康危機管理体制の構築に関する研究（H19-健危-若手-001）」を担当させていただいており、おかげさまで今年度も継続課題としていただきました。

これまで歯科における各部門の基礎情報を収集してまいりましたが、今後は得られた情報を各部門が連携をとれる形でまとめ、そして、歯科が医療・保健など関連する各分野と連携して動ける歯科保健医療の健康危機管理体制の構築を目指す必要があると考えております。

これにあたり、構築していくべき歯科保健医療体制がどのようなものであれば、他の医療・保健を含む支援活動とうまく連動し、そして協力し合いながら地域住民のために生かされるものでありえるのかを、過去の医療支援、歯科医療支援の現場の立場から、そして、行政の立場から提言をいただき、方向性を検討するためのシンポジウムを計画いたしました。

まずは、山形県立救命救急センター診療部部長の森野一真先生に、「災害時の医療支援における他分野との連携～四川大地震における医療支援活動の経験から～」と題して外部から救援に入った場合の現地の医療者との連携についてなどの体験をお伺いしたいと思います。そして、日本歯科大学新潟生命歯学部 口腔外科医長・准教授の田中彰先生からは、「災害時の歯科保健支援における他分野との連携～新潟における2つの大震災における医療支援活動の経験から」と題して、2度経験された歯科保健支援においてどのような他業種との連携が重要だったかなどの体験をお聞きしたいと思います。さらに、東京医科歯科大学大学院医療政策学講座政策科学分野教授の河原和夫先生には、「地域防災計画・災害時支援体制における歯科保健支援の位置づけ」と題して、医療という視点より大きな枠組みから、歯科保健支援がどのような位置づけであるべきかをお教え願いたいと考えています。

そのうえで、「大規模災害時における保健医療支援における歯科の役割」に関して、東京都多摩立川保健所副参事（歯科保健）の矢澤正人先生の進行のもとで討論し、今後の方向性を見出したいと考えています。

お忙しいお時間をお集まりいただいた皆様との情報・意見交換の場として、意義深きものとなればと考えております。

2008年10月

中久木康一

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・顎顔面外科学

k-nakakuki.mfs@tmd.ac.jp

TEL 03-5803-5502(研究室)、5738 (外来) FAX 03-5803-5500

【開会挨拶】 13:20～

---

東京医科歯科大学顎顔面外科

中久木 康一

【基調講演】 13:30～

---

災害時の医療支援における他分野との連携

～ 四川大地震における医療支援活動の経験から ～

山形県立救命救急センター 診療部 部長

森野 一真

災害時の歯科保健支援における他分野との連携

～ 新潟における2つの大震災における医療支援活動の経験から ～

日本歯科大学 新潟生命歯学部 口腔外科 医長・准教授

田中 彰

地域防災計画・災害時支援体制における歯科保健支援の位置づけ

東京医科歯科大学大学院 医療政策学講座 政策科学分野 教授 河原 和夫

【討論】 15:15～

---

司会 東京都多摩立川保健所副参事（歯科保健）

矢澤 正人

大規模災害時における保健医療支援における歯科の役割

矢澤正人先生 略 歴

【学歴】 昭和53年3月 東京医科歯科大学歯学部卒業

昭和57年3月 同大学予防歯科学大学院修了

【職歴】 昭和57年4月 東京都杉並区南保健所勤務（以後、杉並区内の保健所、区役所勤務）

平成元年 厚生省成人歯科保健対策検討会委員

平成3年 東京都歯科医師会公衆衛生常任委員会委員

平成4年 厚生省老人保健福祉局歯周疾患予防モデル事業連絡調整委員会委員

平成5年 日本歯科医師会生涯研修セミナー講師

日本口腔衛生学会幹事

平成6年4月 東京都杉並区保健衛生部副参事

平成12年4月 東京都衛生局医療政策課・多摩小平保健所副参事（歯科保健担当）

平成17年4月 東京都福祉保健局多摩立川保健所副参事（歯科保健担当）

【その他】 東京医科歯科大学非常勤講師

【著書】 老人保健法の歯の健康教育・健康相談の担当者となったら 共著 日本歯科評論

初めての歯科口腔介護 共著 医歯薬出版 他



災害時の医療支援における他分野との連携  
～ 四川大地震における医療支援活動の経験から ～

山形県立救命救急センター 診療部 部長

森野 一真

平成20年5月12日に中国四川省で発生した大地震に対し、我が国の国際緊急援助隊医療チームの一員として5月20日より14日間の医療支援活動を経験した。派遣された医療チームは医師4名、看護師7名、薬剤師1名、救急救命士1名、放射線技士2名、検査技師1名に事務調整を含めた計23名という構成であった。

大震災を代表とする大きな災害においてライフラインの破綻と医療資源を圧倒的に上回る負傷者の集中が招く医療機関における医療対応能力の低下は我々の予想をはるかに超えるものである。また、災害発生からの時間経過によっても医療需要や医療対応能力は変化する。災害時における医療支援の原則は被災地が医療支援を行う側に何を求めているかを災害発生とともに可及的速やかに把握し、その需要にみあう過不足のない医療支援を行う事にある。

国外における医療支援では上記に加え、被災国における法律、保険制度、医療体制、生活水準、言語、慣習・文化、薬剤や医療資機材の調達などに関する事前調査と調整が不可欠となる。しかしながら被災直後の混乱にあってはこれらの調整は困難となり、今回の医療支援においては現地での調整を余儀なくされ、十分なものとはいえなかった。

我々の医療支援活動の場は大学病院であった。各分野における専門性が明確で、支援側も専門性が求められたが、病院側との連携のためには変化する医療需要に合わせた対応も必要となった。今回の支援は我が国としても初めての経験であり、平時よりアジアをはじめとする各国のネットワークや人事交流による相互理解が不可欠であると考えられた。

略 歴

【学歴】 昭和60年 3月 山形大学医学部卒業  
平成7年 3月 医学博士号取得（山形大学）

【職歴】 昭和60年 5月 山形大学医学部 第一外科  
昭和61年 5月 山形県立新庄病院 外科  
昭和62年 10月 山形大学医学部附属病院 第一外科  
昭和63年 10月 城南総合病院 外科  
昭和64年 10月 東海記念病院 外科  
平成3年 6月 山形大学医学部 第一外科  
平成7年 10月 山形市立病院済生館 外科  
平成9年 6月 山形県立中央病院形成外科  
平成12年 4月 山形県立救命救急センター 救急科

【資格等】 日本救急医学会専門医、日本外科学会認定医、  
日本消化器外科学会認定医

日本熱傷学会認定医、JATEC・JPTEC・ITLS・  
ICLS・DMAT講師  
山形大学医学部救急医学臨床教授

【学会活動等】 外傷初期診療ガイドライン（JATEC）  
カリキュラム委員  
日本救急医学会メディカルコントロール体制  
検討委員  
日本集団災害医学会評議員  
日本熱傷学会災害ネットワーク検討委員  
平成20年度厚生労働科学研究費補助金 健康  
危機・大規模災害に対する初動期医療体制のあり  
方に関する研究（主任研究者：独立行政法人  
国立病院機構災害医療センター院長 辺見弘）  
分担研究者  
総務省消防庁救急業務高度化検討委員会メデ  
ィカルコントロール作業部会委員